

昭和21年木場水門完成記念の講演会② 薩摩藩、長良川などの改修を始める

会の行われた本堂には、四、五十人が集まりました。講演した雨工先生は和服姿で、内陣を背にし机の前に立って話されました。講演の内容は次のようなものでした。

揖斐川と木曾川と長良川はいずれも北アルプスに源を発する全国有数の急流であるが、残念ながら治水工事が行き届いていなかった。来る年も往く年も洪水のために農民は塗炭の苦しみを経験した。それに比してこの黒崎のような治水工事は、誠に素晴らしいものではないかと思う。

たまたま宝暦元(一七五一年)、二年と続けての洪水のために、下流一帯は大凶作となった。農民は住むに家なく食するに食物なく、餓死者が続出した。冬に入ると凍死も沢山出た。それまで代官、郡代を



現在も残る堤防。右が揖斐川、左は長良川、手前が川上。最も難工事だったといわれる油島千本松原の堤防(岐阜県海津郡海津町)

通じて幕府に幾度となく河川改修工事を陳情したが、上に厚く下に軽いのが當時の政治状況で、なかなか着手してもらえなかった。しかし、遂に宝暦二年十二月、九州の雄藩島津公にこの工事の命が下った。

な工事でも、いかに大藩といえども藩の命運に負担が予想された。もともと薩摩藩は外様大名で幕府と合わないところがあったから、特に若い連中は、「これは芋がゆをすすりても不可能な工事だから断わるべきだ」と言った。しかし「断わることは幕府を相手に戦をする覚悟がなければ出来ないことだ。衰えた徳川とはいえ、薩摩一藩で戦うにはあまりに差がありすぎる。ここはひとつ死ぬ気で引き受けたらどうか」というのが国家老平田親貞以下の考えで、遂にその難工事を引き受けることになった。

そこで藩の土木学者伊集院十蔵に見積もらせると、三十万両はかかる、ということであった。そして、翌三年正月十九日、平田自ら普請奉行となり、伊集院を総参謀、以下士分、足輕、人足合わせて六百人が薩摩を出発、二月十六日に大阪について差し当たりの資金を調達し、現地へ乗り込んだ。三月九日に到着した平田と伊集院は実地検分して、愕然とするような難工事だと改めて知った。それから竹、杭、石その他の材料を調達して一年近くかかり、十二月二十七日、各隊ごとにいっせいに着工した。(続く)

第7回 音楽芸能発表会 ぜひ見に来てください

11月27日(日)
午前9時30分~12時
環境改善センター
入場無料



■出演団体
琴麗会、舞踊会、コーラスまどか、ギターサークル、オカリナサークル、風人、黒崎パレーサークル等
主催 黒崎町公民館

町民ダンスパーティー 一緒に踊りませんか

11月23日(祝)
午後6時~9時
総合体育館
前売800円・当日1000円

▶入場整理券 前売り800円、当日1000円(どちらも女性はヒールカバー1組付き。教育委員会、総合体育館、北部地区公民館、町社交ダンス協会加盟団体にあります) ※社交ダンスシューズ(ただし、女性は新しいヒールカバー装着のこと。)または室内運動ぐつ以外の使用を禁止します。☎社会教育課(☎377-3101) ※田中勇、美智先生のデモンストラクションもあります。

「明るい家庭づくり」作文の入賞発表と文集発行のお知らせ

- 黒崎町青少年育成町民会議(会長・鈴木昭)では「明るい家庭づくり」運動推進の一環として作文募集を行ってまいりました。本年は、夏休み中の家庭学習として、小学生六十二名、中学生二十四名の合計八十六名の応募をいただきました。審査は九月十九日、町民会議役員、小中学校教諭からなる二十名の審査員によって行われ、左記の通り最優秀賞三名、優秀賞六名、奨励賞八名が選ばれました。
- 〈小学校低学年の部〉
 - 最優秀賞 田中さと子(大野小二年)「おばあちゃんの家づくり」
 - 優秀賞 高橋卓也(木場小四年)「ぼくの夏休み」
 - 奨励賞 中沢桃子(大野小三年)「かわいい家族がひとりふえた」
 - 〈小学校高学年の部〉
 - 最優秀賞 宮嶋智美(黒崎小四年)「家族で旅館を手伝った事」
 - 優秀賞 笠原夏美(大野小六年)「家族っていいな」
 - 奨励賞 柏寿人(木場小五年)「ぼくの家族は野球番組大好き」
 - 〈中学生の部〉
 - 最優秀賞 竹内雅史「自分の家の家族の大きさ」
 - 優秀賞 更科亮太「家族五人そろった四日間」
 - 奨励賞 渡辺佳奈「同居の家の手伝い」
 - 高沢麻美「おばあちゃん」

右の入賞作品に佳作を加えて、十二月中旬を目処に文集として発行します。また、入賞作品の表彰は、例年一月下旬に行われている「青少年健全育成大会」で行う予定です。

黒崎町の音

執筆 宮田栄門

新聞からたどる黒崎の歴史

昭和二年、大野を中心とした近郷の青年たちが大野小学校で模範国会を開いた。

青年団の開いた大野の模範国会 昭和二年三月二十三日記事
大野近郷青年連合模範国会は幾日かの準備の上、二十一日春季皇霊祭の佳節に午前十一時半から大野小学校で第一回の幕を切った。何分この郷最初の壮挙であるために朝早くから詰めたる聴衆、約五百名中には若い婦人も見えた。主催者の挨拶があつて「議長、副議長、議長に浅見金一、副議長に宗村卯一を指名した。」

各党の拍手を迎えられ議長は就任の挨拶をなし、開会を宣す。松井総理登壇、施政方針演説をなし、三本外務大臣、阿部大蔵大臣の説明があつて質問者は各自痛切なる質問をなし、各大臣これに答弁し、質問打ちり日程に入る。第一は米専売法案(政府提出)。農林大臣、提案の説明をなし十五名の議長指名の委員に付託。第二は肥料専売法案、第三は土地国有法案。右提出者の説明あり即決可決。議長三十分の休憩を宣し昼食、午後再開。

第四は社会主義取締法案、第五は国際青年同盟を新編に開催する建議案、第六は中ノ口沿岸鉄道速成に関する建議案。右議案はいずれも即決可決。第七は禁酒法案。政府提案説明を成すべく内務大臣登壇。二十五歳以下の青年に及ぼす飲酒の害を説いて降壇。議長、禁酒法案の決をとると即決で否決され、野党万歳を叫ぶ。第八は義務教育負担法中(印刷不詳)。第十三は神儒仏教国教に関する建議案。第十四は副業調査会設立に関する建議案。第十五は禁酒法案。第十六は五は煙草値下法案。第十七は大野亀田線橋梁架設に関する建議案。第十八は選挙国営法律案。(政府案)

この時、野党より緊急動議を出して山田代議士は松井内閣不信任案の説明を始める。議長説明者に中止を命じ、解散命令の下される旨をつげ総員起立のうちに解散の命令書を讀み、野党万歳裡に閉会。

昭和二年(一九二七)三月二十一日、大野を中心とした近郷(黒部、黒部、黒部)の青年たちが大野小学校で模範国会を開いた。



を開いた模様である。この催しは、黒崎地区でも最初のもので、聴衆五百人の中には、若い婦人の姿も見えたという。

現在、国会での総理大臣の施政方針演説や、議員の各大臣に質問するやりとりは、テレビ中継などで知らない者はないが、テレビも何もないこの時代でのこの催し、当時の青年たちが政治や生活環境に対して如何に強い関心をもっていたかがうかがえる。議長浅見金一氏、副議長に宗村卯一氏が選ばれ、総理大臣は後の黒崎村長松井弘氏、外務大臣三本(名即不詳)氏、大蔵大臣阿部(名即不詳)氏が就任して議会は開会された。

松井総理の施政方針のあと、三本、阿部両大臣が補足説明をし、各議員からの痛烈な質問に対し各大臣がこれに答弁した。米の専売法案(政府提案)、肥料専売法案、土地国有法案(提案者)等を可決。昼食後、社会主義取締法案、国際青年連盟を新編で開催の案、中ノ口川沿岸鉄道速成の案。いずれも即決可決。次いで内務大臣から二十五歳以下の青年の禁酒法案の提案説明があり議長が採決をとると、禁酒法案が大反対と即決で否決され野党が万歳を叫んだとあるのが面白い。米や肥料、土地、義務教育、政治選挙等国会関連の提案議題が多いが、外にいくつかの生活関連法案が提案されている。◎中ノ口川沿岸に鉄道を走らせる案(昭和八年、越後電鉄後の新潟交通開通)◎大野、亀田線橋梁架設の案(昭和十五年、初代信濃川大橋架橋)等、このあたりは国会よりも町村議会のような感がある。そしてこの頃から青年を含め村人たちが、陸の交通機関として電鉄線の開設や信濃川橋の架橋を望んでいたことがわかる。新聞記事に模範国会等の記事が載ったのは、この昭和二年がはじめてのことである。

木場青年の模範国会は挙国一致内閣

昭和二年八月二五日記事
木場青年団にては大野近郷模範国会の予行練習を兼ねて、黒崎青年連合模範国会を開催することにした。閣員は木場村より出し木場青年団が与党としてこれに援助し、他町村は野党としてこれに対決する計画にて、尚来る二六日各支部との打合せを開き更に詳細にわたって協議すると、政府の主義政策及び閣員左の如し以下擬国会閣員

総理大臣山際修平、内務大臣小林助左エ門、外務大臣内山求一郎(医者)、大蔵大臣武田徳松、陸軍大臣山際五郎治、海軍大臣小林力之助、農林大臣山際与治平、商工大臣大谷熊吉、通信大臣高橋興七、司法大臣氏家善七(巡査)、文部大臣永井元市、鉄道大臣渡辺新市、内閣書記官長土田滝蔵

政府及び与党の主義政策
△政治貴族院の権限縮小、社会拓殖両省の新設、普選の徹底(婦人参政権)、軍備の充実、司法権行政権に対する国家補償、植民地に於ける差別政治の撤廃、米価最低価格制定(三五四)、電気の国有
△財政及び経済、郵便貯金の民衆化、関税改正以下略

昭和二年三月二日に大野青年団の模範国会が好評の内に行われたが、これは同年八月二五日の記事による黒崎村青年連合模範国会(木場青年団立案)の計画書である。木場青年団が与党となつて内閣を構成。大野や黒崎、板井、小平方等他部若青年団が野党となつてこれに対決するといふものである。総理大臣には上組の山際修平、内務大臣小林助左エ門、大蔵大臣武田徳松と各閣僚のほとんどが木場青年団の幹部で占められているが民間から二名、木場の医師内山求一郎が外務大臣に、司法大臣には木場駐在巡査氏家善七が起用されている。(警察官の参加は今では考えられない。)(次号に続く)